



医療 事情



ガーナ

BOP層実態調査レポート

概要

ガーナは、2003年から国民健康保険制度が始まり、任意加入であるものの2009年末で1,451万人と国民の62%が制度を利用している。ガーナ人の誕生時点の平均余命は64.2歳で、アフリカのサハラ砂漠以南の平均54.6歳に比べて長寿である。

州都とほとんどの郡に、病院や診療所がある。アクラとクマシの教育病院は特殊事例を扱う施設を有している。また、多くの宗教組織や民間の開業医が病院や診療所を全国に設けている。

一方で、生薬や心霊療法が一般的に行われており、政府による生薬治療病院や研究所が設けられている。

保健医療人材の数(2009年)

医師	2,457
薬剤師	1,950
看護師	8,544
助産婦	3,455
地域保健師	3,864
医療助手	840
Health Information Officerが任命されている地域の割合(%)	37%

出張者が見た医療事情

ガーナの医療施設は大きく4種に分かれている。レベルAの医療施設は規模の大きい研修病院で、レベルBはポリクリニックと呼ばれる地域の病院である。レベルCの医療施設は地元地域に密着した医療施設で、ヘルス・ポスト(他にヘルスセンターやクリニック)と呼ばれる。ヘルス・ポストはその地域にいる公的な医療看護師によって経営されている。上記3種の公立医療施設の他に、個人開業の医療施設がある。個人開業の医療施設は一般診療を行うが、多くは専門医師なので初診だけを行い他の病院を紹介することもある。

一般的に、妊娠をした女性は公立のレベルBの医療施設に行くことが多い。

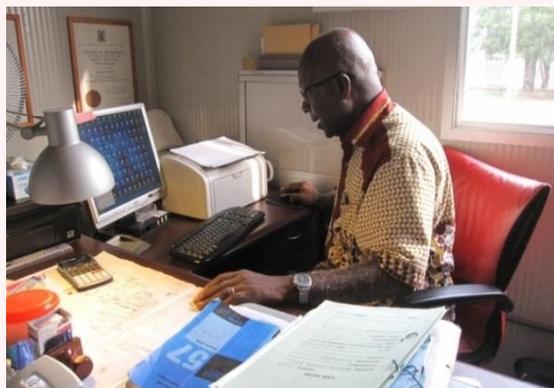
ガーナ大学附属のコーリブ病院、ケープコースト病院など4つの研修病院がある。加えて10州すべてに州立病院があり、その下に地域の医療施設が150程度あると言われている。その下に、ヘルス・ポストなどがある。



写真：地域レベルで一般診療を行う民間の医療施設。マalariaや熱帯病の対応、ワクチン接種なども行っている。



診療医療用ベッド



クリニックのオフィスと医師

ガーナは国民健康保険制度を導入している。支払い額は年間10～20セディ(約410～820円)で、大企業に勤める人は企業の医療保険によって、国民皆保険より質の高い保険でカバーされている。民間の医療保険にはMedX Health Systems, Momentum Healthなどがある。勤め人であれば、給料から国民皆保険を含む福祉税が2.5%天引きされる。所得税は12.5%であるため、給料から天引きされる税は計15%となる。

地域の医療施設の診察料は通常10セディ(約410円)以下である。最も一般的に使用されている薬は抗マalaria剤で、国民健康保険によって無料で手に入る。各病院は提携している薬局がある。私立の病院は民間の薬局と提携している。

アクラにある写真の医療施設HSGには一日平均10～15人の患者が受診に来る。スタッフは看護師が2名、臨床検査技師が1名、そしてパートタイムの医師がいる。ガーナで医師になるには医大で6年間学び、その後研修医として3年間過ごす。レベルA、B、および私立の病院は通常平日のみ営業している。



【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。